

# I am Jazz! (ジャズ・スーパー列伝)

ジャズの発展に貢献し、その歴史に名を刻んだ名プレイヤーたち。その人生は、楽器が異なる如く千差万別。このコーナーでは、そんな個性的なジャズマンたちの功績を称え、生き様を紹介することで、より多くの人々にジャズの素晴らしさを伝えていきたい。

## Vol. 20 Art Pepper [アート・ペッパー] ～ウエスト・コーストが生んだ人気アルト奏者～



Photo by Fresh Sound Records: (JFCD22835)

### Profile

1925年9月1日米国カリフォルニア州ガーデナに生まれる。本名はアーサー・エドワード・ペッパー・ジュニア (Arthur Edward Pepper, Jr.)。9歳からクラリネット、12歳からアルト・サクソスを始める。42年にガス・アーンハイム楽団、翌43年にリー・ヤング楽団、ベニー・カーター楽団に参加。私生活では10代後半の43年に最初の結婚をし娘を授かるが、ドラッグにも手を染めてしまう。44年にスタン・ケントン楽団に入り、ソロイストとして活躍。同年軍隊に入隊するが、47年の除隊後に再びスタン・ケントン楽団に再入団し、52年まで在籍する。この間に飛躍を遂げ、51年にはのダウンビート誌のアルト・サクソ部門人気投票でチャーリー・パーカーに次ぐ2位にランクされ、52年に自己のコンボを結成。初リーダー作を吹き込むなど注目を集め、人気と実力を兼ね備えたウエスト・コースト・ジャズの中心的人物として活躍。ところが、53年にドラッグの問題で最初の逮捕・投獄を経験。その後も同じようなことを繰り返し、療養のため病院に2年間入所することとなる。その間にも離婚、仮釈放中の再逮捕・投獄と一時的に第一線から姿を消してしまう。56年に復帰しライブ活動やレコーディングを行うもドラッグと完全に縁を切ることはできず、60年に再逮捕・再投獄され3年間の療養を強いられる。その後再復帰し西海岸で演奏活動を続けるが、今度は肝硬変・脾臓破裂で倒れ、カリフォルニアの麻薬患者治療センターで療養生活を送る。そして、3度目の結婚後、74年に三度復活を遂げる。その後は精力的に演奏活動を続け、77年には初の日本公演を行い、以降81年まで5度の来日を果たした。1982年6月15日脳溢血により死去。享年56歳。

## アート・ペッパーの記念すべき初リーダー・アルバム！



### サーフ・ライド アート・ペッパー (コロムビアミュージック:COCB-53753)

アート・ペッパー (as)、  
ジャック・モントローズ (ts)、  
ラス・フリーマン、ハンブトン・ホーズ、  
クロード・ウィリアムソン (p)、  
ボブ・ホイットロック (b)、他

1. ティックル・トゥ 2. チリ・ペッパー 3. スージー・ザ・ブードル
4. ブラウン・ザ・ゴールド 5. ホリデイ・フライト 6. サーフ・ライド
7. ストレート・ライフ 8. ザ・ウェイ・ユー・ルック・トゥナイフ
9. シナモン 10. ナツメグ 11. タイム・タイム 12. アーツ・オレガナー

## ドラッグ問題から復帰したアート・ペッパーの快心作！

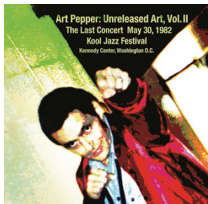


### ザ・リターン・オブ・アート・ペッパー アート・ペッパー (EMI ミュージック:TOCJ-90031)

アート・ペッパー (as)、  
ジャック・シェルドン (tp)、  
ラス・フリーマン (p)、  
リロイ・ヴィネガー (b)、  
シェリー・マン (ds)、他

1. ペッパー・リターンズ 2. ブロードウェイ 3. ユー・ゴー・トゥ・マイ・ヘッド
4. エンジェル・ウィングス 5. ファニー・ブルース 6. ファイヴ・モア
7. マイノリティ 8. パトリア 9. マンボ・デ・ラ・ピンタ
10. ウォーキン・アウト・ブルース

## アート・ペッパーの最後のステージを収めたライブ作品



### ザ・ラスト・コンサート 1982 アート・ペッパー (ビクターエンタテインメント:VICJ-61503)

アート・ペッパー (as)、  
ロジャー・ケラウェイ (p)、  
デイヴィッド・ウィリアムソン (b)、  
カール・バーネット (ds)

1. ランドスケープ 2. トーク 3. オフェリア 4. トーク
5. マンボ・コヤマ 6. 虹の彼方に 7. トーク
8. ホエン・ユー・スマイリング

アートの初リーダー・スタジオ・アルバムで録音は1952-54年。廉価なロックンロール・コンピ作品のようなジャケット写真は少しイタダけないが、ウエスト・コーストということで我慢しておきたい…。でも内容は最高！20代後半の若きアートの直球勝負的な疾走感溢れるプロウが冴え渡り、スイング感抜群でアドリブも凄まじい！全12曲中10曲がアートのオリジナルで、自分の名字ペッパー（＝こしょう）にちなんで名刺代わりについたのだから…「チリ・ペッパー」「シナモン」「ナツメグ」「アーツ・オレガナー」といった香辛料にまつわるタイトルを付けたナンバーが並んでいるのも興味深い。それぞれ曲は短いながら、初期のアートの魅力がギッシリと詰まっっていて素直に楽しめる。

録音は1956年。同時期に吹き込まれた名盤『モダン・アーツ』や『ミーツ・ザ・リズム・セクション』なども捨て難いが、ドラッグ問題を起こし刑務所暮らしから復帰した後、最初に吹き込まれたこの作品も忘れ難い。ジャック・シェルドン (tp)、リロイ・ヴィネガー (b)、シェリー・マン (ds) といったウエスト・コーストの名手たちを従えている点も興味をそそられるが、その仲間たちがアルバムのおープニングを飾る「ペッパー・リターンズ」というタイトルそのままに、漸くシャバの空気を吸うことができたアートを歓迎し、明るくスイングに盛り立てる雰囲気も伝わる。「ユー・ゴー・トゥ・マイ・ヘッド」「パトリア」等バラードの美しさも際立つ。ウィリアム・クラクストン撮影のジャケット写真も渋い！

真っ赤なガウンを羽織りリングに向かう老練なボクサーのようにストレートを放つジャケットが印象的な本作は、アートが脳溢血でこの世を去る僅か16日前、最後のステージとなった1982年5月30日の『クール・ジャズ・フェスティバル』出演時の模様を収めた記録。「ランドスケープ」「オフェリア」「マンボ・コヤマ」というアートのオリジナル3曲を含めた計5曲に加え、曲の合間にアートのトークも収録されている。中でも「マンボ・コヤマ」では17分にも及ぶアートの自熱のプロウが味わえる。体調こそ万全でなかったにせよ、この日の演奏が生涯最後のステージになるうとはアート本人も思わなかったはず。壮絶な人生を生きた名アト奏者のラスト・ステージをぜひ味わって欲しい！

## 自叙伝『ストレート・ライフ』

1981年に出版された『ストレート・ライフ アート・ペッパー 衝撃の告白自伝』（スイング・ジャーナル社）は、アート・ペッパーの3人目の妻ローリーが生前のアートの録音を原稿に起こし、知人・友人のインタビューや雑誌の記事などから構成されたもので、510ページに渡ってジャズ・麻薬・監獄・アルコール・セックスなど壮絶なまでのアートの生き様が綴られている。アートの音楽を語る上で、ウエスト・コースト・ジャズ全盛期の50年代のブレイトと74年の復帰後～晩年にかけてのブレイトとで好みや別れたりもするが、この自叙伝に触れることでアート・ペッパーというジャズマンに対する思いが変わるかもしれない。アートの方が少し年上ながら同じ時代を生き、共にウエスト・コーストで活躍し素晴らしい共演も残しているチェット・ベイカーの生き様にも通じるものがあるが、こんなにまで破天荒にジャズマン人生を貫く男達はまだ出て来ないだろう…。

## シナノン

シナノン (Synanon) とは米国カリフォルニア州サンタモニカにある薬物中毒者のためのリハビリテーション施設で、アートは69-71年の間をこの場所で過ごしたが、他にもジャズ・ミュージシャンではフランク・リハク、ジョー・パス等が入所していた。

## アートと日本

1977年の初来日以来81年まで5度の来日を果たしたアートは大の親日家としても知られ、自叙伝『ストレート・ライフ』でも日本について語られている。初来日の演奏は『ファースト・ライブ・イン・ジャパン』で、最後の来日公演の演奏は『アバシリ・コンサート1981』で聴けるが、その間の78年には妙中俊哉氏プロデュースにより『再会 (Among Friends)』をリリースし、80年には石黒ケイの『アドリア』に参加している。